

平成 28 年第 2 回 山武市学校のあり方検討委員会 会議録

1 日 時	平成 28 年 3 月 28 日(月) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 37 分
2 場 所	山武市役所 第 4 会議室
3 出席委員	14 名
4 欠席委員	6 名
5 会議内容	(1)山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画(案)に関する「意見を聴く会」の開催結果及び今後の進め方・考え方について (2)山武市学校のあり方検討委員会設置要綱の一部改正について (3)その他(今後のスケジュール(案)について)
6 事務局説明者	教育総務課長 外

1 開会 午後 1 時 30 分

2 あいさつ(委員長及び教育委員長)

～あいさつ終了後～

事務局：それでは、議題に入りたいと思います。なお、ここからは委員長に議長となつていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長：それでは議題に入る前に、会議録の公表について確認をさせていただきたいと存じます。本日の会議内容については、事務局が作成した後、委員の皆様へ書面で送付されます。ご確認をいただき、修正がある場合は、事務局へ申し入れていただきたいと思います。その後事務局は速やかに公表するというので、進めてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

委員長：ありがとうございます。それでは、ホームページへの公表については以上のおりで行いたいと思います。よろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画(案)に関する「意見を聴く会」の開催結果及び今後の進め方・考え方について

委員長：それでは、議題の内容に入ります。(1)山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画(案)に関する「意見を聴く会」の開催結果及び今後の進め方・考え方について、事務局よりご説明をお願いします。

事務局：教育総務課の小川でございます。私のほうから資料の説明をさせていただきます。本日お配りさせていただいております会議資料の 1 ページ目をご覧くださいと思います。委員の皆様へに会議の開催通知と一緒に配布しました、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画(案)に関する「意見を聴く会」の概要と当日の参加者にアンケートをとった集計結果、パブリックコメントでのご意見、それに伴う市の考え方を記載したものを 3 点を本日の説明資料とさせていただきます。また、本日、机上配布ということで差しかえさせていただいたパブリックコメントにつきましては、後ほどご覧いただきまして何かございましたら後ほどお伺いします。それでは、先ほどお話ししました 1 ページ目をご覧くださいと思います。意見を聴く会

につきましては、2月6日、7日、21日の3日間の日程で開催いたしました。参加人数につきましては、全体で6カ所、133人という少ない参加者だったということで、ちょっと残念だなという結果となっています。意見内容につきましては、市の施策に関する事、学校教育に関する意見、質問が多く、基本計画（案）に関する内容については、アンケートの結果から見ても、ある程度理解されているようにも感じられたというものでございます。しかしながら、今回の参加者数の状況から、基本計画を成案とすることは難しい面がございます。こうしたことから、3月4日の教育委員会協議会、また同月10日に開催されました総合教育会議において、市長と教育委員会の間で今後の進め方について協議を行ってございます。その結果、この基本計画を予定どおり推進していくために、年度が変わり早期の段階から、前期計画に予定している学校ごとに保護者を対象とした説明会を開催し、共通理解が得られるよう丁寧な説明に努め、基本計画の成案への移行、実施計画の策定に向けて取り組んでいくことに意思統一が図られたというところでございます。

この結果を踏まえ、教育委員会では3月17日に開催された第3回の定例会において、前文、先ほどの下線部分ですけれども、こういう形で丁寧な説明を今後進めていこうというような意思決定を確認したというところでございます。今後、基本計画の推進に当たり各委員からご意見を伺いながら、また協力を得ながら進めていきたいと考えております。

その下の資料につきましては、当日の参加者数が学校ごとに書かれております。この数字は、前の年に基本方針の素案の説明をしたときとほぼ変わらず、前は140人ちょっといたんですけども、各地域で同じような参加者数という形になっております。

その下の資料につきましては、各中学校での主な意見ということで、学校ごとに事前配付させていただきました、全文起こしたものの、該当部分の中から質問の部分を箇条書きで抜粋したものがここに並んでおります。会場によって多少意見内容が変わってきますが、山武市の教育を今後どうやっていくかということのほか、まちづくりに関する質問も結構多くいただいた形になってございます。統合した後の子どもたちの不安を解消するための配慮をちゃんと考えているのかとか、通学がどのようになるのかとか、そういうものについての個別具体的な質問も出ていたというように聞いてございます。これが2ページ、3ページ、4ページ目までが中学校ごとの主な意見でございます。

4ページ目の下の段には、当日参加者アンケート結果ということで参加者133人中62人の方から回答をいただいたという結果をまとめた、その一部をここに書かせていただいております。このアンケートで単純集計をした結果におきましては、「理解できた」とお答えいただいた方が51.6%ということで、ほぼ半分の方から「理解できた」とお答えをいただいたという形になっております。「理解できない」という方が17.7%という形になっています。「理解できる」という方の中にも、計画そのものは理解できたけれども、この取り組みは反対だよというコメントをつけて、「理解できた」という形でコメントをいただいた方もいるので、なかなか理解は難しいかなというところもまだまだあるかなと考えております。

それと質問として2問記述をしていたのが、この統廃合のことにに関して、基本計画の内容のこと、この統廃合を進めていく上で配慮すべきものは、どういうものに配慮したらいいかというような設問でございました。それに対して答えが多かったのは、児童生徒の通学手段をちゃんとしてもらいたいということと学校での教育活動をちゃんとしてもらいたいという回答が一番多く集められたということでございます。いずれにしても全体の参加者は少なかったというところから、アンケートの結果だけで判断するのは難しいかなというところではございますけれども、こういう結果になっていたということでございます。

お配りした資料には、事前配付の資料でございますけれども、クロス集計という形で、どう

いう世代が、どういう答えというものも分析して得た結果もごさいます。全体として「理解できた」が一番多い世代は50代で57.1%、40代が52.9%、30代で46.7%という形となっております。あとは学区別でいいますと、答えてくれた方が、学区に分けると本当に少ないのでアンケート結果として有効な形にはなりませんけれども、30代から50代の方で中学から小学校までのお子さんがいらっしゃる、いわゆる子育て世代の方のアンケートをピックアップして分析した結果ですけれども、そういう方々は成東中学校は1人だったんですけれども、お1人の方が「理解できた」と、成東東中学校につきましても「理解できた」という方は半分です。山武中学校はアンケートに答えてくれた方は全て「理解できた」という形になりますけれども、蓮沼中学校については子育て世代の方ということからすると、「理解できた」とお答えいただいた方は25%だったというような形になります。説明会をやってみて、意見交換をする中でも、やはり蓮沼中学校区の方のお考えというか、ご意見はなかなか厳しいものがあつたのかなというふうに理解をしています。こういうことを今後どうやって理解を深めていくかということが課題になってくるということでごさいます。あとは参加されている方の人数も少ないので、基本的に何か質問をしたいとか反対だとかいうことを表明する形で参加される方も基本的には多いのかなという部分もありますので、実際に来られていない方のご意見がどういうものかということも、今後把握していかなければいけない。それを具体的に考えて、教育委員会で、ある時点でこの基本計画の案という、案がついているものを成案にしていかなければいけないというところでごさいます。

資料の説明は以上でごさいます。よろしくお願ひいたします。

委員長：ただいま事務局から説明がございました。基本的には教育委員会及び総合教育会議、市長部局との協議が終わって、現実にこのような形で進めていきたいというような説明でありました。委員の皆様から、ご意見をいただきたいと思ひます。

私のほうから先に幾つか質問させていただきます。今、教育総務課長がお話になりました、この案をとるといふのは、どの段階でどういふときにとれるようになるものかといふのが、今は案になっていますね。それがとれるのは、どんな状態になって、どんな会議をしたときにとれるのかといふのが第1点であります。

それから、私、説明会に参加をさせていただいて、漠然とでありますけれども、そこにいらした皆さんが、例えば中学校メインでありましたが、大きくなるということについて漠然とした不安を持っていたらっしゃるなという感じをいたしました。それは小学校から中学校へ行くとき、今は現実に、蓮沼地域を除いてそれ以外は幾つかの小学校が1つの中学校へそれぞれ行くという形になっているわけであります。そのときも、初めて学校を超えて子どもたちが1つになるということに対するものと多分同じではないかなと思つたんですけれども、知らない生徒たちがまじり合うことによって何か出てくるかもしれないあつれきといふものに対する、それがさらに大きくなるのに対する不安なかなといふふうに理解をしたんですが、これは私が会議に出席したときの感触ですけれども、そういう不安があるとすれば、当然学校サイドとしてはそれに対応しなければならないということを見ると、学校では生徒指導の相談をする窓口みたいなものが確かあるように記憶しておりますけれども、そういう人たちの充実といふんでしょうか、教職員の充実を、わかりやすくきちっとメッセージとして出していくといふのはどうなのかなといふ気がいたしました。今でも例えば松尾や成東や山武では行つていて、多分初めて1年生で来たときにはいろいろなことがあつて、学校ではかなり気を使うことなんですよけれども、そこら辺の心配を取り除かれるように、今までよりも、もっと充実してきちっとできますといふようなメッセージを出したらどうなのかなといふのが1つです。

それから、子どもたちがこの地域の中で学校を選択したいという希望もあるような気がいたしました。つまり、これは部活でなんでしょうけれども、野球だったらあそこの学校へ行ってやってみたいということがあるとすると、そこら辺のところ、つまり学区というものはきちっと存在するわけでありましてけれども、その辺のところをもしかしたらば小学校から中学校へ行く段階で少し緩やかにというんでしょうか、子どもたちの希望がかなえられるような、ある種の緩さというものも話し合いの中で出して、教育委員会のメッセージとして出していくのもどうなのかなというようなこともあります。そんなようなことを感じましたので、どうか意見として私のほうから申し上げておきますので、もし何か教育委員会のほうで、それについてお話があればいただきたいと思えます

事務局：ありがとうございます。教育委員会の内部の話し合いの中で、案をとるのはどのぐらいの時期か、先ほど委員長が冒頭のご挨拶の中でも、その時期はどういう、どういう状態になったらとれるかというのはこれから議論していくところなんですけれども、今回ご意見をいろいろ保護者の方、地域の方から伺っていく中で、まちづくりに関する質問であったりとか、いろいろとある中で、この統廃合には反対するという中で、結局子どもたちの通学に関する不安であったりとか、環境の変化に対する不安とか、そういうことへの不安みたいなものから反対するような意見もあったかと思えます。そういう部分は、統合する話し合いの中で、今後統合していくという話し合いの中で解決できるような内容も多く見られたと思うんです。結局話し合いの中で、こういう形でやっていく、事前に合同の授業をやるとか、統合の前に友達関係をつくるような、交流するようなことというのも当然考えられるわけで、そういう中で円滑な統合に向けて準備を進めていく、それでそういう不安感を取り除くことも可能ですので、それは取り組みを進めていく中で解決していけることは相当あるのかな。そういう面では反対という意見が、もし変わっていくことができるのであれば、そういうことを見込んで、ある程度の段階で案をとって、実際の事前協議の中で詰めていってやっていくというのも1つの方法になるのかなと考えています。

ですから、全ての面が解決しない限り案をとらないというようなやり方でいくと、いつまでたってもできないのかなと。それは教育委員会で、このお話し合いを始めるに当たって今までの環境、今後考えられる児童生徒数の減少により望ましい環境では当然なくなっていくということが想定されているのを解消するためにやっているお話なので、教育委員会としてはある程度の段階で判断して、案をとって、それで話し合いを進めていくという方向で今は考えているというところでございます。

委員長：こういうように理解しておいてよろしいでしょうか。事業を実施するということを決断したときは案がとれていると。例えば、今で言えば、事務局のほうで説明のあったように、これから説明会を開く、その結果を見て実施するということになる、その結果を見て案をとることか。それと案をとるときは、この検討委員会で案をとりますという会議を開くのか。そこら辺のところはどうなるんですか。

事務局：案をとるというのは教育委員会で決定をします。

委員長：わかりました。

事務局：今の状態ですと、133人の方にしかご説明をしていないし、意見交換をしていないという状況で、今の段階で案をとるのはいかなものかという意見もいろいろありましたので、今後は小さい会で説明会をし、そこで理解を深めてもらう。まだ説明が至らないところ、それを解決できるだけの説明をしていないところがあれば、そこで説明して理解をしていただいて、その段階で教育委員会で案がとれるかどうかの判断をするという形になるのかなと。

委員長：わかりました。ありがとうございます。

教育委員長：4月から年度が変わると、学校の先生方がかわる学校もあるし、それから、新しく児童が入学すると保護者もかわりますよね。そういうことから事務局との話の中では、6月ぐらいまでに、PTA総会などの学校行事にお邪魔して、お話をさせてもらおうかなと。そういう中で、また意見を聞く機会ができますので、そういうのを踏まえていったらどうかという話であります。

委員長：承知いたしました。

それでは、委員の皆様からご意見を伺います。どうぞ、A委員。

A委員：1つ聞きたいのは統合案の件なんですけれども、やはり山のほうと海のほうとでは温度差があるような感じがするんです。ですから、時間差というわけじゃないんですけれども、進められるところは進める、まだ理解が得られないところはちょっとおくらせるとか、理解を深めるまでその計画は、同時に全部やるというんじゃないくて、理解が得られやすいところから先行してやって、理解がまだ不足しているというところはもう数年待つとかいうことは考えられないのかという点でございます。

私は蓮沼地区ですけれども、既に蓮沼はこの案が出たことによって、保護者のほうでかなり動揺があります。蓮沼小学校の子どもたちは、どうせ蓮沼中学校がなくなっちゃうんだったら、蓮沼中に途中まで入れて、松尾に入れようなんていうよりも、卒業したらすぐに、年がわりときは松尾に入れちゃったほうがなじむんじゃないというような意見もございます。この案が出たことによって、心理的な影響というのが非常に高くなっているのかなと。

それと、教育委員会さんが言っている、統合すれば社会になじむという意見に関しまして、先日、蓮沼中学校の卒業式に出席してまいりました。部活があるということで兄弟が別々の、松尾中学校に入れて、下の子は蓮沼中学校に行って、やはり兄弟を両方入れてみて、蓮沼中学校のほうがよく面倒を見てくれたと、それがはっきりわかったという親の意見がありました。それから、松尾中学校に入れたんだけど、やっぱり蓮沼中にすればよかったかなという保護者の方もいらっしゃったと。

統合案を読んでも、蓮沼でもいたし方ないという流れになってきていますけれども、いま一度、教育の統合のメリットというものがうまくいかないと、なかなか理解が深められないのかなという気がします。というのは、蓮沼から今いろんなものが消え去ってしまって、村民に対するフラストレーションが非常に高まっております。給食センターがなくなる、幼稚園がなくなる、中学校がなくなる、合併とは一体何なのかという不信感がどんどん増大しているときに、この問題で、じゃあ、もっと蓮沼に住むかといったら非常に不安を抱えているという問題があるので、そのあたりの、どんなメリットがあるのかということがわかれば理解が深まるのかなと思います。ですので、私のほうとしては、統合を進めるところは統合、反対の地区まで行って、統合の意見が固まらないところはもうしばらく、数年待って、それがほんとうにいい合併なのかどうかという時間的猶予を与えたらいかがじゃないでしょうかということでございます。

委員長：考え方はさまざま、ここが一番微妙な問題に多分なってくるんだろうと思います。教育というものの実際に持っている効果をどこのスタンスに求めるかによって、統合というものの是非とか、今、A委員からメリットという話もありましたけれども、教育って、こっち側から見て、こっち側から見て、後ろから見て、横から見て、何がいいかという解がなかなかないわけですけれども、その辺のところは今回どなたに、事務局としてお答えをいただくというと、教育長がいませんから、私のほうでは、事務局で誰か。

事務局：学校教育課の井上と申します。貴重なご意見ありがとうございました。

保護者の方が、兄弟がそれぞれ蓮沼に、松尾にという中で、やはり松尾のほうがというような

ご意見や、蓮沼のほうがといったご意見があったというようなお話をいただいているところですが、どの部分でという部分は正直あるんですが、市の教育委員会としては、できるだけ、これからの社会がグローバル化というか、切磋琢磨する中で、いかに子どもたちがそれぞれ考えながら、お互いに切磋琢磨する中で競い合っていく力を身につけていく方向で進めたいというところでご提案を申し上げているところですが、保護者の方々の部分で、正直、部活動という部分では、本来蓮沼中学校に入学されるお子さんが、松尾でしたり、違う学校にという部分がございます。おっしゃってくださった部分が教育、先生方のかかわりの中で、やはり蓮沼の少ない人数の中での先生とのかかわりのほうがよかったとおっしゃってくださっている部分なのか、その辺のことをもうちょっと、もしお話を聞かせ願えればと思っているんですが、市としては少しでもお互いの力をつけるためにというような部分から、これからの社会に生きていく子どもたちにそういった力をぜひつけてあげたいというのを含めて、そういうお話をさせてもらっています。

あと、これは子どもたちの視点とちょっと離れてしまうんですが、何回も説明させてもらっていますけれども、やはり今、国の基準といいますか、先生方の人数も学級の数で決まっているというところがあります。具体的に言ってしまうと、蓮沼だと先生方が9教科ある先生方でも7名しかいないというところで、2つの教科については、その時間だけ来ていただいているという形で指導しておるわけなんです。子どもたちにとって、果たしてその時間、例えば美術の先生と音楽の先生が蓮沼にいない場合、その時間の曜日にはいるんですが、ほかのときに聞きたいという部分では対応が厳しいというところから、やはり今度は、先生方の環境といいますか、そういったことから、ある程度の規模はやっぱり必要ではないかということでお話しさせていただいているところです。

実際に比較をして、大きいところと小さいところの学力の部分だとか、生徒指導の部分だとか、そういったところの検証はまだ具体的にはしていないところなんです。そういったところから考えている状況ということでございます。

よろしいでしょうか。すいません、答えになっていないかもしれないんですが。

A委員：私が聞きたいのは、統合の部分で、時間差というか、それが可能かどうかということをお聞きしたいと思います。

事務局：可能かどうかと言われれば、地域の方、保護者の方がどうしてもだめというのを、教育委員会で無理やり、このときにぴったり始めますよということは全く考えていませんので、それは話し合いの中で進めている。そういう中では、時間がずれていくということもあるかとは思っています。ただ、教育委員会としては、今でも、例年蓮沼小学校の子どもたちが中学校に上がるときに、同じ区域の子が続いて上がらないで違う区域に流れていくというのが実際起きている、この先を見ても子どもの数が減っていく、先生方も少なくなれば8人ぐらいという環境がほんとうにいいのか。一般的に考えれば、そういう環境はやはり整えていかなきゃいけないだろうということから、この話をしています。そういう中で、蓮沼小学校の数だと先生方の目が確かなに行き届くと思います。昔からのつき合いの多い子どもたちの中で、ずっと仲よく育っていくということからすれば、いま一つ望ましい環境なのかもしれませんが、市内全体を見た中で、望ましい環境というのをある程度同じように考えた中では、蓮沼の中学校は、他の学校と比べると環境がやはり偏ってきちゃうので、そこは同じような環境にしていっていかないと考えています。

それがあまりにも、どんどん遅れていくことが本当のメリットになるかというのは、あまり肯定的には考えられないとは思っている。それは今後地域の中で、保護者の方との話し合

いの中で、より詰めていかなければいけないところだと思っています。ご理解いただかない限り、統廃合を始めるといものではないということをご理解いただきたいと思います。

委員長：いずれにしても、地域の中での説明をし、ご理解をいただいて初めてスタートする、そういう理解でいいということですね。

事務局：補足しますけれども、全員が賛成しなければという意味ではありません。

委員長：それはない。その判断は教育委員会にお任せするという事です。説明をして、判断は教育委員会がする。そう思います。どうぞ、A教育委員。

A教育委員：メリットという話にかかわるかと思うんですが、とにかく厳しい社会を生き抜いていく子どもをどう育てるかというところにかかわってくるのかなと思うんですね。兄弟が多いときは、家の中でいろんな、戦いながら生き抜いてきた、だけど、今、子どもたちも少なくなって、また多くなってきていますけれども、そういう地域、家庭環境の中で、厳しさを与えているところが意外と少ないのかなと。そうすると、少しでも多くの人たちとの接触によって、いろんな考えを持ち、いろんな状況の中を生き抜いていくということで、そういう場を、やっぱり今、教育の中でつくってやらないと自然の中ではできないのかなと。

卒業生というか大学生、それ以上を見ていると、すごく優秀で終わってくるんですが、就職したらすぐにその環境にめげてしまって、それを貫けなかったり、そういう姿をすごく多く見るものですから、そういう状況になったときにも、やはり子どもたちが多く接しられればいかなという思いがあります。

委員長：ありがとうございます。

それでは、ほかの委員からご発言をいただきたいと思います。よろしいでしょうか。B委員、どうぞ。

B委員：ほんとうに、このことは大変なことでありますので、なかなか難しいわけですが、メリットとしては、今、A教育委員がおっしゃったように、1つ、子どもたちの心を磨くという点では非常に大事だと思います。

また、この中にも出てきましたけれども、部活動について、なかなか好きな部活動があっても生徒数が少ない、また、先生が準備できないことも多いと。生徒数が増えていけば、担任の先生のほかにも、先生を学校に配置していただけるという大きなメリットがあります。地域感情というのは非常に難しいとは思いますが、それを無理してやったところで、変に感情的になってもいけませんし、時期というものがあるんだろうとは思いますが、ただ、子どもたちの環境ということで、大人があまりにも感情的になるという面では、自分も子育てが終わりましたのでわかりませんが、そういう点では子どもの教育環境ということをまず第一に考えながら、地域性はもちろんあるんですけれども、そういうことも含めて、子どもたちの意見もそれとなく聞いていけるような、授業の中でみんなで話し合うような、そんな時間に、学校がなくなるんだよとか、そういうことではなくて、何か先生が上手に引き出しながら、統合に向けての話というか、子どもたちの心の中にも、一つ準備ができていけるような授業をしていただけないかなと今聞いていて思いました。

それが1点あるんですが、この蓮沼中の件につきましては、ご意見を見ますと、バレーボールができなくなってしまう子どもの環境を考えてほしいという意見がありました。この点についてはちょっとその場になかったので、どういうことなのかということをお聞きしたいのと、それから、松尾中学校が大変に、教室がたくさんあるわけなので、私としては、私は松尾に住んでおります、松尾地区の中では、この計画の案の中では、今現在、松尾小学校を建てかえてはどうかとかいう案もあるわけなんですけど、これからどんどん子どもさんが減る、減ることを前提に言うてはいけないんですけれども、人口そのものが減っていきますので、その中で考え

ていきますと、果たして松尾小学校を建てるという方法が、将来に渡っていい計画かどうかということも含めまして、私は松尾中学校に一度、小学校2校と、そして松尾中学校の中に、中学生と一緒に、お兄ちゃん、お姉ちゃん、そして中学生も下の子を見ることによって、感性というか、やさしい、弱い者を助けるという、そういった母性愛にも、成長という面ではあるのではないかなと思うんです。この点については、建てるということについての、計画案については、決定ではないと思いますが、そういった案も、できるところからということで、先ほどA委員のほうからありましたが、そういう点も含めていかがでしょうか。

委員長：事務局、お願いをいたします。

事務局：学校教育課の齊田と申します。貴重な意見をどうもありがとうございます。

まず最初に、子どもたちの心の準備を進めるような取り組みということは本当に必要なことでございますので、それにつきましては、地域の合意が得られ、そして、その方向性が定まってきた段階で、小中の交流だとか、そういった地区を越えての交流ですとか、そういったもの、先生方も出入りするようなことも含めて、計画をしていく必要があると考えてございます。と思いますので、それについてはシミュレーションをつくっていききたいなと思います。

1点目でございますけれども、松尾中に小学生を入れて、小中の児童生徒と一緒に生活をするということについては非常に教育効果があると思います。例えば、仮に松尾中を想定して、そこに小学校の児童が入ってきます。そうしますと、まず最初に壁になってくるのは、施設の部分でございます。あの敷地の中に、児童と生徒、発達段階も違う、運動量も違う子たちが体育館や運動場で活動した場合、どのようなことが想定されるかということを考えていったときに、子どもたちの学習環境、生活環境を整えることがまず第一ですので、そこから考えると、松尾中に小中、教室的には入るかもしれませんが、さまざまな活動に支障があるだろうと。そこをクリアできるかどうかというのが今後の検討になるのかなと思います。

事務局：意見を聴く会の中で、あのときは確かに、蓮沼中学校で今男子バレー部がある、それが新しい学校になったときに、男子バレー部ができるのかどうかということ、あとは、今、体育館の利用状況の中で、今、小学校と中学校がしばらくの間、一緒に仮設で入って授業をやって、体育館の利用の中で、小学校は小学校でミニバスをやったりとか、いろんな形で体育館を使う、それが全てみんな同じように使えるように、今までどおり使えるようになるのかということと不安がある、そういう仮設の時期があるというときは運動は難しいんじゃないかと。そういう中で、少し時間をずらして、小学校ができ上がって、仮設が終わって、もとの小学校に戻った段階で、中学校を統合すれば中学校の部活の練習場のローテーションの中で男子バレー部ができる可能性が高いんじゃないかみたいな意見があったかと思います。

それでも、今後の話し合いの中で詰めていける問題だなとは思っているんですけれども、そのとき確かにそういうご意見をいただいたのは事実でございます。

委員長：ありがとうございます。

B委員：委員長、よろしいでしょうか。

委員長：どうぞ。

B委員：わかりました。3年間というサイクルで変わっていくということがあるので、そういった保護者の気持ちも非常によくわかりますし、まして、頑張っている子どもの姿を見ればというところかと思います。

先ほどの松尾中学校の件は、私の言うことが全てこうしてほしいということではなくて、たたき台の中で何かいい方向にいけばいいかなという思いで提案をさせていただいたんですが、スクールバスが出るわけですね。そうしますと、松尾小学校の放課後児童クラブについては、洗心館の中に設置をされたわけですが、そこまでスクールバスで来られるわけですので、

そういう面では非常に安全な形で子どもたちが伸び伸びと学校生活を送れるだろうと思います。そして、何よりもこれから市の財産といいますか、施設を、ある意味では将来のことを考えながら減らしていかなければならない段階に入っているわけで、そういう面では、建ててほしいと強く願っている地域には建てられない、また、ある意味こちらではこういう状況があるから建てるということよりは、新しいものはつukらないという方向性の中で、1つきちんとした土台をつくりながらやっていきませんか、せっかく合併をして10年たったわけですが、これからもまだ、あっちが建てただの、こっちがないだのという、何か感情的なものを生み出すようなことではなく、あるものを使いながら、将来にわたって、松尾中学校の敷地も広いので、その中に小学校も入る校舎をつくるなり、あとは、共有できる部分は共有をしてということで、財政的な中にも、子どもたちのことを思った内容で、変化をしていけるといいなと思っております。とにかく豊岡小はもう待たなすです。通っている子どもも、保護者の皆様も、十分満足をしてらっしゃると思いますが、ある意味では、そういった急いでやれるべきところについては急いでやってもいいという土壌があるのであれば、先ほど片岡委員がおっしゃったように、進めるべきは進め、なかなか土壌が整っていないところについては時間を待つとか、そういったことで進めていかないと、この計画はずっと案のままなかなか進まないのではないかと思います。

以上です。

委員長：貴重なご意見ありがとうございます。委員会のほうでは、今、B委員からお話のありましたことについては熟慮させていただけたらありがたいと思います。

そのほかにどなたかご意見ございませんでしょうか。

それでは、私のほうから指名させていただきます。PTAのほうでご意見を賜りたいと思います。C委員、何かございましたら、いただけたらありがたいと思います。

C委員：私は成東東中学校区で、今、PTAの役をやらせていただいているんですが、2月7日のところに参加させていただきました。私のほうの意見としては、皆さんの意見もすごくわかるんですが、私が自分なりに感じていることなんですが、やはり今の中学校、私、2人出まして、お世話になって、今度、来年からもう1人お世話になります。そういったところで言いますと、2人ぐらい出たときには、部活動というのはすごく活発に中学校でできていたわけなんですけど、どうも3人目ぐらいになってくると、野球で言うところとちょっと人数が足りなくて、この学区で考えればそれでいいんでしょうけれども、九十九里さんと一緒になりまして、そういったところでやっても、要するに、今度統合をしたときには、例えば今言ったとおりメリットがあるのか、成東東中が成東中と一緒になるわけであって、成東中と一緒にになると、野球が、Aチームというのかできるのかというのが1つあります。例えばさっき言われたバレーボールだとか、そういったものも多少あるとは思いますが、そういったところが1つあります。

あとはやっぱり、PTAをやっていると、ほかの保護者さんから聞くんですけども、成東中と一緒になるんですか、中学校が一緒になってうまくいきますかねみたいな、意見交換会のときに、海の方が、こっちまで買い物に来るんだと、委員長もおっしゃいましたけど、そういったところがあってかなりびっくりされたところもあったんですけども、そういった状況で、私が思うには成東中は成東中でやって、こっちはこっちの文化と言ったらおかしいですけども、何かあるんじゃないかならうかと思っています。

計画、ここまでしっかりもんでくれているんですから動いていくのは間違いないんでしょうけれども、今、私の子どもも、中学校3年行っちゃうと、中学校の合併には関係なくなってしまうところはたしかなんですけれども、うちの意見としては、うまくいってくれればいいのか

なと思っています。

すいません、まとまりがなくて。

委員長：貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。

D委員、よろしいでしょうか。

D委員：今の意見をお聞きしてしまして、1つ、一緒になったときの不安、混乱というのがあるという話もありましたが、特に蓮沼、小学校と中学校ですけれども、1校ずつなので、中学校に上がる時はないわけです。ただ、中学校から高校に行くときにそれがある。子どもというのは基本的にものすごく適応力が強いと思いますので、ただ、普通の場合は小学校に入るときに1回やって、中学校に入るときにもう1回あるわけです。主に、私もそうなんですけれども、昔の子どもたちがたくましかったのは人数が多かったからなんじゃないかという思いがあるんですね。必ずそれが正しいとは言いませんけれども、私はそういうふうに感じてはいます。

あと、いろんな意見を一通り見させてもらいましたけれども、先に送っていただいた資料の52ページのところに、中学校で校長をしておられたという方の意見が載っているんですけども、先生によっても、人によって意見はばらばらだと思いますけれども、学校の子どもの意識を高める、モチベーションを上げる1つの方法が部活動だと言われています。私もそうだと思います。運動系というのは、人の意識を高めるのに、一番手っ取り早いと思います。オリンピックも開かれます。文化系でも盛り上がりますけれども、運動系に比べるものではないぐらいだと思います。この先生は中学校では部活動というのは教育だと、勝ち負けに関係なくと言っていますけれども、私もそう思っています。

私は山武中ですけれども、私が会長をしていたときに、1つの部活動がなくなりました。実は、そのときの校長先生がものすごく消極的な意見を持たれていたこともあったと思っています。その後、ほかの教員の方に聞いたらば、人数がいなくて、部活動を維持するのが大変なんだ、かけ持ちでやっているんだと。できれば、子どもたちのために続けてあげたいんだけど、いろんなことを考えると勘弁してくれという話が、本心として聞かされました。

現場の先生がそうなら仕方ないと思って諦めた次第だったんですけども、子どもが増えるイコール先生が増える、いろんなことができることになるんだと思います。現場の子どもたちに聞いてみなさいという話がありますけれども、子どもたちは、意識のある子は学校に入る前に何がやりたい、何がやりたいとありますけれども、大抵の子は入ってから、いろんなものを見て、どれにしようかなんです。そのときの選択肢がなければ、少ない選択肢で選ぶんです。入って、いや、私はカヌーがやりたかったなんていう人はいません。ただ、入ったときにカヌー一部があったら、「なるほど、やってみようかな」という子どもも出てくるわけです。そういう中であって、現場の子どもたちに、この話を聞くのは的がずれているんじゃないかなと。考えるのは私たち大人なんじゃないかと思っています。

あと、先ほどA委員からありましたように、やりやすいところをどんどん進めると。そうでないところは時間をかけてもいいんじゃないか、これは賛成です。地域の理解がないと進まない話ですから、ただ、反対の人は声を大きく出しますので、どうしてもそっちへ引っ張られてしまいます。だけど、それが正当な意見なのかどうかというのはきっちり判断しなきゃいけないと思います。

ただ、今回の説明会、私は成東東中に出させてもらいましたけれども、やっぱり人数は少なかったです。特に、山武なんかはすごく少ないです。これは関心がないというよりも、賛成の人は別にあんまり出ようとしません。反対の人は、「よし、行って一言言ってやろう」となりますので、関心がないのもありますけれども、みんな、今の現状を考えるとしようがないなと思っているのもかなり強いと思います。私も山武の人間ですけれども、いつ統合するんだと、

早くしてくれと、私の周りではその話が多いです。反対だという話は地元では聞いていません。

時間をかけずに進められるのは山武地区が一番最初だと思っていました。けども、なかなか話が進まないのやきもきしているわけなんです。あまりにも意見を聞き過ぎる、心配をし過ぎるとというのが最近の傾向ですけども、もっと進めるべきものは自信を持って進めていい部分があるのではないかと考えています。

以上です。

委員長：ありがとうございます。ご意見としていただきます。E委員、どうぞ。

E委員：お話ししますが、先ほど事務局のほうから説明がありました、1ページの線を引いてある中で、意思統一を図るということで取り組み方針が示されました。しかし、そこへ行くまでに、参加者が大変少ないから心配しているということを申し述べられましたので、どのようにしたら、もっと参加者を増やしていく方法を考えているのかどうか、それを1つお伺いしたいと思います。

それから、各学区の意見を拝見したんですが、私の考えでは、大筋、学校が統合することに対しては、あまり反対というか、拒否する感じは考えられなかったです。逆に、学校そのものが生徒がいなくなってなくなります。そうすると、地域にとっては学校がなくなった後に、どのようにその跡地利用するのかと、そのほうが心配されていることが多いように感じました。跡地利用とかについての考えを示したことがあるのかどうかをお伺いしたいと思います。

委員長：どうぞ、事務局、お願いします。

事務局：多くの参加者が集まるような説明会、意見を聴く会をやる方法として考えているのは、そのときにこちらが呼びかけて集めるということ、なかなか抵抗感もあるので、学校の行事に合わせてやる機会に参加するという形でやれば、もっと集まってもらえるのかなと考えています。

それと、もう1点、跡地利用でお示ししているのは、今回、基本計画案の中で、例えば、山武南中については、統合後の小学校として使いますと。それと、豊岡小学校の跡地にまつおこども園を移設して使うという案をお示しさせていただいたのはあるんですけども、そのほかについては、今のところ、まだこれといった具体的な案はないので、それは今後の計画を進めていく中で、跡地利用についても併せて地域の方等も含めて一緒に考えていってもらえればということで今、考えているところでございます。

E委員：そうですね。今、お話があった、松尾のほうはそれですけども、全体的にどういうふうになるか、ここは残す、ここは残さないとか基本計画の中で示されているんですけども、基本計画に沿っての跡地利用計画が必要だと私は思いますので、ぜひ計画を示していただきたいと思います。

それから、参加者を増やすというのは、これは子どもたちとか保護者にはアンケート調査を1回していますよね。これは1回やった後、もう一度やる必要があるかどうか、そこら辺のお考えをお伺いします。

事務局：意見を聴く会が終わった後に、今後どうしようという話し合いをした中で、広く意見を聞くという手法についての話し合いをしました。そのときに、基本としてはアンケートが多いねという話をしたんですけども、もともとこの話は、あり方検討委員会の委員さん方にお話をいただいて、アンケートの項目を決めて、お諮りして、全員の方にアンケートをお配りして、5千何人という方からいただいたものをベースに始めています。これをもう一度やることによって、またスタートに戻っちゃうので、こちらとすれば、あのときに聞いた意見をもとに、もう児童数、生徒数の減少を踏まえていけば、やむなしというお考えの方が多いものをベースに始めた話なので、これをまた、今回もアンケートをやることは今のところ思っていないという話し合いになりました。

ただ、例えば、先ほどの児童、生徒に意見を聞いてみたらという意見もあったので、そういうもので、例えば、統廃合に対しての不安みたいなものを直接子どもたちに聞いてみることで、もしかしたらやってもいいかな、それを今後の統合の準備の中で、そういうものも集約して行って、解消に努めることは、そういうのは具体的にはできるかもしれないけれども、全体に聞くのは今のところは考えていないという形です。

E委員：アンケートをもう一回とると、もとへ戻っちゃう、これは無理なことで、私は逆に、参加者の意見を募って、案をとれるような状況につくり上げられればいいかなという思いで考えたんです。意思統一が図られるように進んでいただけたらいいんじゃないかと、私はそう思いました。

以上です。

委員長：ありがとうございます。どうぞ、F委員。

F委員：少しだけお話しさせていただきます。なぜ統合しなくてはいけないかという、もっと大きなところで見ると、理由は皆さんもご存じだと思うんです。私は住民側の立場ですから、子どもを中心に考えてきました。そうしますと、A教育委員の意見に行き着きます。今、子どもたちでも、大人もそうなんですけど、たくましい部分が欠けているように思うんです。世の中で起きている事件、今日、中学2年生が見つかりましたけれども、ああいうもの全てのベースに、自分の思っていることをちゃんと伝えられない、または受け取れない構造があるように思えるんです。そういうことも含めて、多くの子どもたちが接することで、お互いに切磋琢磨して、鍛えられなくちゃいけないところが今、どんどんなくなって、少数精鋭主義かという、人間の基本的な部分での人間性が、頭のよし悪しももちろんいいほうがいいに決まっていますが、一番大事な人間性が培われていないというのが、このごろの世の中を見ましての私の感想です。

ですから、大きなテーマがあって、統合しなきゃいけない理由があるんですね。それで、統合するという中で、今、話をお聞きしていますと、何年も前に松尾地域審議委員会が出たような話も出てまいりまして、前後するんです。アンケートの話も今、出ましたけれども。ですから、せめて、子どものための学校であれば、たくましい子どもに育てるようにみんなで考えるべきだと私は思います。よろしくお願いします。

委員長：ご苦労さまです。ありがとうございました。それでは、G委員。

G委員：これはもう3年になりますか、始まって4年目になるんですね。ところが、委員になったとき、知識がなかったものですから、全国各地域での統廃合について書いた本があることを友人の大学教授から聞いたので、それを読みますと、その中に、東京都の足立区は過去に統合問題で大変な騒動があったという記録が残っていたんです。これは5年から6年かけて、最終的には統合したらしいんですが、そのときの区民は反対と賛成と二分されて、まるで戦争状態になってしまった。住民の間でここから向こうは賛成派、こちらは反対派なんていう状態、それを何とか区議会で最終的には決めて落ちついたんだそうです。福井県でもあったそうなんですけど、そういうことを見ますと、これは大変な問題なんだと思いました。我が山武市は、教育委員会の努力、それから、教育委員の方たちの努力、また、委員になられた方の努力に対し感謝いたします。合併していなければ、簡単に町、村として解決できましたけど、よくぞここまでまとまってきたなというのが私自身の感想なんです。

前回に私もたしか発言したと思うんですが、これは副委員長らも出た意見だったと思うんですけど、まず順位を決めて、それでやるということをおし上げたと思うんですけど、そのために、先だって案として出されたのが、平成33年をめぐりに前期計画ということで案ができたということなので、その中で、前期の中のトップが山武地区になっているんですけど、これが、先だっただの中学校での説明会に、私は成東中学校までは全部出席していたんですけど

ども、特に山武地域の中で、山武西小学校と日向小学校は、山武西小学校が歴史が浅いものですから、18年しかたっていません。もともとは日向小が本校だったんですけれども、当時、2007年、870人の生徒が増えたために山武西小学校を分校ということをつくろうとしたら、分校は嫌だから本校にしろというので山武西小学校になったという話を、前に日向小の校長先生をやっていた先生から聞きまして、それで、現在に至っているのです、この間、周りの人たちだとかに、時々、私は山武西小学校と山武南中学校の評議員をやらせてもらっているものですから、いろんな意見をPTAの人たちからも聞くんですけれども、非常に理解度が高くて、スムーズに、もともとは日向小学校だったんだから、一緒になるのは当たり前じゃないのと、反対はないんですよ。私の聞くところでは1人も反対はいません。しかも、山武南中学校になるということに対して、「山武南中、いいね」とか「ああ、すばらしい」、「それでいいじゃないの」と言っている方が多くいました。また、生徒が減ったらどうなるのかなんて、そういうことを心配するPTAの人もいました。ですから、日向小学校と山武西小学校については現在、全く問題ありません。ただ、問題があるとすれば、山武西小学校の跡地はどうするのか。社会福祉協議会のほうで管轄して、高齢の関連の施設をつくるんじゃないかとかという噂話も、まことしやかに出るんです。ですから、そういうことを考えると、1年生に入学する人の保護者とかPTAに、学校行事に合わせて説明をやっていただければいいなと思いました。これは山武西小学校だけじゃなくて、どこでもそういう形でやられて、きめ細かい説明をして、納得をしてもらう。少子化は少子化なんですから、だから、これ以上、急に子どもの数が増えることは当面あり得ないですから、そこを納得していただいてという方向に持って行って、A委員が言われていましたが、最終的には蓮沼地域が一番大変だと思います。

ほんとうに、皆さんご苦労さまでございました。よろしくをお願いします。

B委員：委員長。先ほど言い忘れたんですけど、よろしいですか。

委員長：どうぞ。B委員。

B委員：申しわけありません。先ほど松尾のことを申し上げましたが、大平小学校も大変校舎が古くなっているんです。そういう意味では、建てかえるとなると、「じゃあ、うちは」ってなります。大平小もぜひ一緒に、こんなことを言ったら、松尾町の皆さんから非難ごうごう受けそうですが、子どもたちの環境という点では、先日、2月に愛知県の名古屋市、小中学校が一緒に1つの施設でやっているところに行ってみましたが、その校長先生がおっしゃっていました。

作文を書いたのを見たところ、子どもがやっとなの子と別れられた、よかった。それはなぜかと言いましたら、今までずっと1クラスで来た。その学校が1つでスタートしたことによって、2クラスになれた。やっとなの子と別れられたという作文の文章を読んだときに、自分は愕然としましたということで、あそこは財政力が高いですから、無理やり全部2クラスにしていますけれども、うちはそこまで将来的なことを考えても厳しいのかなと思いますので、最低2クラスできる学校の統合を目指していただきたいというのが1点。

それから、もう1点は、先ほど今関委員長がおっしゃったように、学校の政策を緩やかにという点では、私もそういうことはあまり考えていませんでしたが、すぐ隣は何々中なのに、何で外れまで行かなきゃいけないのというのがあると思うんです。ですから、好き嫌いとか部活で選ばせると、何かぎくしゃくする部分があるのかなと思うので、距離数を基点にするなどしながら、一部、ここの距離数の区域にお住まいのところは選択できますとか、そんな形もとられてもいいのかなと、それだけしか思い浮かびませんが、やっていただけたらと思います。

以上です。

委員長：ありがとうございます。それでは副委員長、お願いします。

副委員長：今日も各地域の事情なども伺えて勉強になったんですけども、D委員からもお話がありました。統廃合については、人口減少は日本の問題で、千葉県自身も、東京や神奈川、埼玉に比べるとあまり伸びがないというか、人口が県全域で流入が見られるものでもなく、そういう点では千葉県の山武市、この周辺の自治体というのは、おおむね人口減少に大きな問題を抱えていることは、どなたも、住んでいる方、かかわっている方ならご存じのことなのかなと思います。

私は、大学からここに出席させていただいて、これまでもお話しさせていただいたとおり、大学も同じ船に乗っていて地域とともにありますので、この地域の人口減少というのは、ほんとうに大学にとっては死活問題になっています。

そういう中で、地方創生の山武市の会議にも参加させていただいて、いろいろとご意見を言わせていただいているんですが、統廃合をきっかけに、先ほど部活のお話もございましたけれども、ハードの面については、スクールバスを利用するとか、また、海側と山側の問題とか文化の違いももちろんあると思うんですけども、でもそうはいえ、この地域の子どもたちなわけです。地域の子どもたちをどうやって立派な大人、また、地域を支えてくれる大人にしていくかということについて、ソフトの面については、まだまだこれから詰められる部分があるんじゃないかなと。

ただ、ソフトの面についての議論がないがゆえに、何かデメリットばかりが強調されてしまうというか、子どもを通わせていけば不安は増します。通学距離が伸びますし、母校がなくなって寂しさがあるわけですから。でも、新しいものができるとか、新しいプログラムが始まるといったものを、この辺で早く大人が打ち出してあげないと、それこそ子どもたちがわくわくする気持ちもないまま時間だけが過ぎていってしまうんじゃないかなと考えます。

少子化対策としては、地元の人子どもを産む数を増やす、これは各家庭で、そんなに簡単な問題ではなくて、いろんな背景があって、人口を増やすのは大変な問題だと思います。そうすると、転入者を増やすことになる、最近、東金、大網とかでも創生のところから出てくるのは、自治体の中での人の奪い合い、競争。その人たちが結婚してくれて、さらに家庭を持って、子どもを出産してもらえる。そうすると、山武医療センターに産婦人科医がいるのか、いないのかというトータルな問題に発展していく。

転入者を増やすといっても、よそ者が入ってくることを地元がどう受けとめるかというのは、また違う問題になってきて、さらにそれが外国の人だったら、数は増えるけど、それでいいのかという問題も出てくるかもしれません。

そういう人口が減っていく中で、地域の人たちが喜ぶ施策と、転入者を引きつける施策というのは、また別物かもしれないので、そういった点で、私なんかからすると、各地域の事情があって統廃合のペースとかいろいろあると思うんですけども、統廃合についてのソフトの部分ももう少し早く、議論としても打ち出していったほうがよろしいんじゃないかと特に思うわけです。

例えば、案として小中学校が近くにあっていたら、小中学校一貫教育みたいなことも、お金かかるかもしれませんが、新しい統廃合があったからこそ、そういう考え方が出てくるかもしれませんし、もちろん小中高が何か連携できるような考え方。最近、大学は成東高校との教育提携をさせていただいて、市長をはじめ、山武市のご支援があって成東高校との教育提携ができたんですけども、それは高校と大学と行政が協力し合いながら、新しい人材をつくり出そうという試みで、そういう意味ではこの地域のお子さんたちがグローバル教育を受けて、成田空港をはじめとする関連施設や医療の分野で働ける、地元に残りたいというのが裏には狙いとしてある。

そうすると、この統廃合もそういうソフトの面を発想をかなり大胆に変えて、お子さんたちが地元で親のやっている職業をやっていこうと思うような、また残って高校をやっていこうと思う

ようなプログラムも小中学校のうちからしっかりと教育のプログラムで入れていくとか、そういった今までやってないことを入れるいい機会じゃないかと思っています。ですから、悪いところしか大体考えると出てこないの、物理的なことを考えてもそうなんですけど、それを何かプラスに変える力も少し、それこそそういうことであれば各ご家庭のご意見というのはもう少し集まって参加の意欲も出てくるんじゃないかなと感じました。

ちょっと長くなりました、失礼しました。以上です。

委員長：ありがとうございます。どうぞ、事務局。

事務局：ご意見ありがとうございます。逆に質問させてもらって申しわけないんですけども、今、山武市教育委員会でまちづくり、ひと・まち・しごとの政策の中でも、そういう新たな教育の取り組みということで、グローバル教育に力を入れていきたいと思いますということで、幼稚園から英会話を学ぶ、それを幼小中連携して、そういう言語教育に取り組みましようとか、そういう動きは始めているところです。

そのことと、先ほど副委員長がおっしゃったような、統廃合を契機にというのはなかなか一緒にはならないんです。それは統廃合しなくても、それは取り組んでいた話になるので、統廃合するからこれをやりますよというふうにはなかなかつながらない。そういう説明もできませんから、統廃合を後期も計画している学校はやらないで、新しい前期の学校だけがそういう取り組みをやるということもやりませんので、新しい取り組みをやっていくんですけども、そういう統廃合のうまい味にはならないというのが今の状況です。

そういう中で、もし小中一貫教育というものであれば、統廃合した中でやっていくかもしれないんですけど、ここがなかなか制約があってできない。ただ、ただ、幼小中の連携した教育をやっていきたいと思いますというスタンスでは、先生方で協力してやっていただいているという事実はあります。ただ、それがうまく伝わっていかない面は確かにあるんですけども、そういう中で実際、ソフト面で何か力を入れていくというもの、もっともっと何か統廃合のこの時期だからできるものというふうに言えるものというのはほかにあるのかということと、何かあるんでしょうか。どっちにしてもやらなきゃいけないことで、やっているものも結構あるんですけども。

副委員長：例えばグローバル教育で英語教育ということで出てきますけど、グローバル教育というとなんかわかったような、わかんないような、高等学校の千葉県の教育委員会とかでも私お話をさせていただくと、教育免許状講習という教員の10年講習のところで行ったときに、「グローバル教育って先生方何ですか」と言って話すと結構答え皆さんばらばらで、英語とかって言ったりとか、いろんな解釈があって、実際こういう各自治体で行っているグローバル教育に書かれているものなんか見ても、英語教育ぐらいしか大体ないんです。異文化を理解しようといって、異文化理解って何かということとでしかないんです。そういう意味では、山武市が英語を幼稚園から小中高とやっていくのはいいと思うんですが、それをほんとにグローバル教育とみんなと言って、それが山武市の次の時代を、地域を支える人材に必要な教育ですかということまでやっぱり詰めて考えていく必要は私はあるんじゃないか。この地域に求められるものって何なんだろうというふうには、やっぱり考えていくことが私は重要だと思います。それは私がこうですというふうには言っちゃうものは正解でも何でもありませんけれども、例えばうちの大学なんかで今、学生たちが次にチャレンジするものとして挙げてきているものは英語のほかにプラスアルファで外国語、中国語をやるとか、韓国語をやるとかという、2つ外国語を話す時代になってきましたよということをやっているのはあるんです。それともう一方で、どっかの国に1個だけ行ったら外国通になったというよりも、今の時代北半球なら北半球で、北米、アメリカ見て、ヨーロッパを知って、そしてアジアを知ってと、3つぐらい大陸知っておかないと、

この文化を大学のときに1度に経験させるぐらいのプログラムしないと、ほんとにグローバルな視点で、地球規模で物事を発想することってないだろうとかという議論をしたり、結構いろんな議論というか、発想とか、教育に対しては各ご家庭でもいろんな考え方があると思うんです。ですから、そういったものを教育委員会をはじめ、山武市の教育というあり方で議論していく、話をしていくということが大事なんじゃないか。誰か偉い人が来て、グローバルってこういうものですよなんて言えるほど、グローバルというのは簡単なものじゃなくて、多分山武市の抱えている事情に合わせて、グローバルな教育のあり方というものもみんな議論して、子どもたちが山武にいてよかったね、こういうふうな学びができたというオリジナルなものも考えていく方がいいんじゃないか。でなければ、山武を出て、幕張に行くと、幕張でインターナショナルな人たちが通う学校の公立高校へ行けば、よりインターナショナルだよって言われちゃえば、それでおしまいになってしまうプログラムじゃなくて、やっぱりここに子どもを通わせようとか、ここでよかったねと言われるものをみんなが考えていくというふうにはしないといけないのかな。そうしないと、東京の今の私立の小学校というのは、4クラス、5クラスあって、私立ですから、4クラス、5クラスあって競争しているわけですね。公立高校は1クラスか2クラスが多くて、多いところでも3クラスがやっとでという、おかしな現象で、昔は公立高校行けば競争でもまれてたくさんの方がいて、私立は少数人数の教育で甘えん坊が多くてと言われてたのが、もう今全く逆で、私立の小学校が4クラス、5クラス編成、それで公立高校は多くてもどこの区でも3クラスとか、2クラスとか、千代田区にいたっては1クラスとか、2クラスがやっとというふうになっているわけです。だから、やっぱり私たち自身大人が子どもたちに対して発想を変えてあげないと、多分いけないんじゃないかなと思うんです。あんまり答えになってませんが、そういうことでまたお力添えできることがあれば一緒に考えていきたいと思えます。

委員長：ありがとうございます。

こちら辺で10分間の休憩をとりたいと思えます。

(休憩 午後3時10分から午後3時20分まで)

委員長：それでは、会議を再開します。(2)山武市学校のあり方検討委員会設置要綱の一部改正について、事務局よりご説明をお願いします。

(2) 山武市学校のあり方検討委員会設置要綱の一部改正について

事務局：それでは、資料5ページ目をご覧いただきたいと思えます。あり方検討委員会設置要綱の一部を改正させていただきたいということです。本年4月1日からこの改正をしますということで、引き続きお願いしたいという内容になってございます。

詳細につきましては6ページ目をご覧いただきたいと思えます。新旧対照表になっております。大きく二つの見直しした点があります。1つは、3条目の組織という中の2項目に地域審議会を代表する者という号があります。地域審議会がこの3月いっぱい審議会そのものがなくなる、そういうお話をいただきましたので、組織の中から地域審議会を代表する者という枠を削るという改正をここですということ。

そして、戻って2条目なんですけれども、今まで「所掌事務」という見出しになってたんですけれども、事務というのを皆さん方をお願いするというのもどうなのというのがあって、「所掌事項」という書き方にまず変えさせていただいたのと、今まではこのあり方検討委員会そのものが教育委員会から諮問をして、それに対して基本方針をつくるための答申をいただくため

に、もともと設置した委員会だったというところなんですけれども、諮問をして答申をしていただくという当初の基本方針をつくるということでは、当初の目的は達成したという形になっています。ただ、私どもとしましては、今回お話しいただいているように、地域の方、保護者の代表の方々から、学校の今後のあり方について、私どもが考えている基本計画の基本方針、今後つくっていきます実施計画に対して、市民の皆さんにご説明するに当たって、どうしてもいろいろな意見を事前にお伺いして意見をいただきたいという、こういう場しかなかなか意見を聞く場がございませんので、引き続きこの委員会は存続させていただきたいという中で、この2条の書き方だと、ちょっと読み方も難しくなってきたかなということで、整理させていただいたところがございます。改正後の2条目の第1項なんですけれども、さっきの諮問一答申ということはそのまま、今後も何かしら教育委員会からお願いすることもあろうかと思えますので、諮問に応じて答申をするというのはベースに残してあります。それに2項目をつけ足しまして、委員会は、次に掲げる事項について教育委員会に対し意見を述べるができるということで、これが今回やっておりますような教育委員会が策定した学校の規模適正化・適正配置に関する計画の推進に係る課題等に関する事項という書き方にさせていただいたんですけれども、今まさにやっているような基本計画を進めていくに当たって、委員さん方から意見をいただいて、それを参考にしながら進めていくための、意見を聞く場としての機能をメインにするという感じでございます。その他教育委員会が必要と認める事項として第2号もつけた、そういうような改正で今回させていただいて、次年度から改正した要綱で運営をしていくというような改正をさせていただいたというところでございます。

説明のほうは以上でございます。よろしくお願ひいたします。

委員長：それでは、ただいまのご説明について、ご意見をいただきたいと存じます。これは修正等でありますからよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

委員長：ありがとうございます。それでは、このように改正をさせていただきます。

次に、(3) その他、今後のスケジュール案について事務局よりご説明をお願いします。

(3) その他

事務局：9ページ目からになりますので申し上げたいと思います。次回のあり方検討委員会を6月ぐらいに開ければということで考えています。そのとき議題の案として、ここに載っていますけど、今後のスケジュールというのが学校規模適正化・適正配置基本計画（案）に関する説明会の進捗状況についてご報告ということ、この3月いっぱい、現委員さん方の任期が一旦終了になりますので、新たな委員として委嘱をさせていただき、それで新たに委嘱させていただいた方から委員長と副委員長を選んでいただいて、新たなあり方検討委員会としてスタートしていただくという展開を6月に予定してございます。団体の代表ということで委員になっていただいている方が多くいらっしゃいますので、またその所属の団体にご依頼をさせていただき、ご回答いただいて推薦していただいた方に委員になっていただく。地域審議会を代表する者の枠で出ていただくという方につきましては、教育委員会のほうで選考させていただいておいでいただくというふうな形で考えておりますのでよろしくお願ひしたいということでございます。

10ページ目になりますけれども、今後のスケジュール（案）として、A3の横のカラーのものになります、28年度、オレンジ色の枠、真ん中から右側になりますので、これをご覧いた

だきたいと思います。今回3月に議会でこの統廃合に関連した一般質問をしていただいたので、そこで進捗状況という形でご報告ができたかなというところが27年度の最後であります。先ほどご説明させていただいたように、5月から7月ぐらいの間に、小さい単位、小中学校単位での説明会をさせていただいて、理解をしていただけるように、働きかけをするという説明の場を開催していくということで考えています。その間、2番目になりますけれども、定例の教育委員会、協議会等を開きまして、基本計画（案）を今の案を成案にできるかどうかというところ、説明会をやりながら、それをいつごろするかという話し合いをここでしていくということになります。あり方検討委員会につきましても③ですが、6月に最初の集まりを開かせていただいて、ここで委嘱と進捗についてのご説明をさせて、委員さんかわる方もいらっしゃるでしょうから、今までのご説明をさせていただいて、進め方の確認をさせていただくこととなります。

下の段のところに点線で囲んでいる四角のほうをご覧くださいなんですけれども、基本計画策定ということで、事務局の希望とすれば、できれば8月ぐらいまでの間に説明をして、ご理解をいただけるような状況であると判断できれば案をとって、そのまま本案にできればという期待を持って進めていきたいと考えています。それが成案になりましたら、それをさらに具体的な計画として策定する実施計画を地域別につくっていくという取り組みを12月ぐらいまでの間に協議をしながら詰めていくということで考えています。この段階の間で、あり方検討委員の皆様方にもこういった考えですよという形でご意見をいただく場を何回か設け、あとは説明会とか、やっていった進捗についてもご報告をさせていただくという場を何回か設けるということで考えています。議会のほうには、⑤のところですけど、12月の定例会とか、その後の年明けの議会全員協議会とか、もしあればそういった場において実施計画はこんな形で考えてます、というご報告ができればということで考えています。その後、またあり方検討委員会で、市民説明会の前段としてこういう形で市民の皆さんに実施計画の案をお示ししますよという案ができましたら、あり方検討委員会を開催して、またご意見をいただくというのが年明けの1月ぐらい。市民説明会を対象学区で行って、その状況を3月にご報告させていただいて、3月の議会の議会全員協議会で説明させていただくという形で、平成28年度の予定を考えているというところがございます。

スケジュールについての説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

委員長：ただいま、今後のスケジュールについて事務局より説明がございました。委員の皆様から、ご質問、ご意見をいただけたらと思います。

私のほうから1つ。統合準備の専門部会というのをつくって、そこで例えばこの前の説明会のときに、リーフレットの下のほうに各専門部会の記載があったと思いますが、それは、この資料でいうとどこら辺でできるんでしょうか。

事務局：資料の平成29年度、30年度のところになります。

委員長：それは平成29年度で、これが順調にいった場合、つくるということですね。

事務局：はい。

委員長：承知しました。

事務局：一番早いパターンでということになります。

委員長：ありがとうございます。スケジュール等について、何かご質問ございますか。

これで進んでいくということでご理解いただくということよろしいでしょうか。

D委員：すいません。

委員長：どうぞ。

D委員：前回もちょっとお伺いしたんですが、山武西小学校、山武南中学校のときは、1年かからずに全部をつくり上げたんです、組織を。今回2年をかけて統合準備の作業なんですけれども、これは余裕をもって2年と思っているのか、期間は2年ぐらい必要だという部分があって、このようになっているのか。

委員長：これは早くできれば、別に2年かけなくたっていいんですか。事務局、どうぞ。

事務局：学校の統廃合についての役割分担があるんですけれども、私どもとすれば、教育総務課の役割の件については、早くつくれば早くやれることはあります。ただ、先生方の配置だとか、そういうところが1年で調整できるかどうかというところがありますので。

委員長：それでは、私のほうからお願いします。そのような形で早くできるという事態に立ち入ったら、地域の皆様から早くしてほしいという意見があれば、早急に事務局のほうは努力をしてください。

事務局：今の教育総務課長からあった点は、それでいいんですけれども、教職員につきましては、分かれる場合には増になりますので、教員は採用する形になります。増やすことができるので、対応は比較的いいんですが、減ると今度は解任とって、先生が余る状況になりますので、最低でも2、3年は必要だと言われています。これからの状況の中で早目にそういうものがあれば、県の委員会等と相談をして話は進めていきたいと思えます。

委員長：よろしくお願いします。そのほかに何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、これから事務局のほうは精力的にこのスケジュールに沿って事業を展開していただきたいと存じます。

4 その他

委員長：事務局からその他何かありますか。

事務局：ありません。

委員長：それでは、本日はご苦労さまでした。私のほうから、一番最後に少し申し上げたいと存じます。長い時間をかけてここまでたどりついてまいりました。今までの議論の中で学校を、地域との説明会などで、少しずつそごがあると申しませうか、意識のずれがあるというのは、私どもは現実に学校をそれなりの規模に再編成したらどうかというのが、私どもの立場であります。子どもたちがそこできちっと教育を受けられるかどうかという保障については、私どもがなかなか手を出せるものではありません。これは学校にお願いをする以外にない。今、教育委員会と学校の関係について、私も詳しくはわかりませんが、そこまでなかなか踏み込んでできるかどうかということについて、私どもが疑問を持っているわけでありまして。これはいい教育といった場合に、さまざまな取り方があって、何をどうするという言い方はありませんけれども、そういういい教育と言われるような教育を山武市の中に展開していただけるか否かということについて、保護者の皆さん、地域の皆さんは大変関心を持っているはずだろうと思えます。

簡単に言いますと、私どもが若かったとき、例えば長野県は教育県であると言われてきました。実際に、教育県って何をもって言えば、何だかよくわからない。けども、多分これを契機に、山武市は立派な教育をしているということが、この地域から千葉県の中、全国でもいいじゃないですか、メッセージとしてきちっと示せるようなことをどうか教育委員会は学校と精力的に話し合いを持って、推し進めていただけたら大変ありがたい。

これは、昔、私が私の母から聞いた話でありますけれども、私の母は神奈川県出身です。去年亡くなったんですけれども、学校の先生をしていました。当時、神奈川県は教育程度高かったという話を聞いたことがあります。ですから、やり方とすれば、私一番最初のときに申し

上げましたように、例えば生徒指導の担当の教師をより充実するような形で山武市が考えるかどうかということもありましょうし、どこかこれは私のお願いでありますけれども、もう1度繰り返しますが、山武市がこの近くの自治体の皆さんから山武市はなかなか教育については努力をしているということがわかるような形で、目に見える形でお願いできたら大変ありがたいと思います。ぜひお願いをいたしたいと思います。

本日は、長時間ご協議をいただきましてありがとうございます。これで、この会を閉めたいと思います。ご苦労さまでした。

5 閉会 午後3時37分